

# 文化資源研究センター

## 若手研究者を対象にしたプロジェクト

平成18年より「国立民族学博物館の共同利用に関する若手研究者懇談会」を開催し、参加者を公募して開催してきました。21年度からは「みんぱく若手研究者奨励セミナー」として実施することになり、23年度も、3日間にわたって同セミナーを実施し、優秀発表者には「みんぱく若手セミナー賞」を授与しました。日本全国から国公私立大学在籍の大学院生等11名の参加がありました。また、若手研究者の意見を受けて、20年10月より、試行的プロジェクトとして「若手研究者による共同研究」を開始し、以下のように20年度は2件、21年度はさらに1件を公募により採択しています。なお、22年度からは制度化され、一般の共同研究と同様に公募しています。(13頁参照)

研究代表者	研究課題	研究期間	共同研究員数					計
			館内	国立大学	公立大学	私立大学	民間機関など	
市川 哲	人の移動に注目した場所・空間・景観の文化人類学的研究	平成20年10月～22年9月	0	3	0	6	0	9
石田慎一郎	アジア・アフリカ諸国における裁判外紛争処理の再編が旧来の多面的法体制に与える影響についての共同研究	平成20年10月～22年9月	0	1	1	1	2	5
内藤直樹	<アサイラム空間>の人類学:社会的包摂をめぐる開発と福祉パラダイムを再考する	平成21年10月～23年9月	2	5	0	1	1	9
計			2	9	1	8	3	23

## 日本文化人類学会などのユーザー・コミュニティとの研究協力の推進

本館のユーザー・コミュニティとして、最も関係が深い学会である日本文化人類学会と平成20年2月27日に連携事業に関する協定書を取り交わしました。みんぱく主催の研究集会への協力及び学会が保有する文化人類学映像アーカイブズの処理と保管を連携して実施しています。また連携をさらに進めるため、協定の見直しを行い、個別の事業内容とは別の、包括的な協定である「日本文化人類学会との連携に関する協定」を締結しました。

## 地域研究コンソーシアムとの連携

地域研究コンソーシアムは、「地域研究」を共通のテーマとするアカデミック・コミュニティの活動体であり、本館は平成18年5月に70番目の加盟組織となり、20年より幹事組織の一員となっています。20年11月8日には、本館との共催により年次集会がもたれ、公開シンポジウム「地域研究の実践的活用—開発・災害・医療の現場から」を実施しました。

## 研究活動に関する情報収集と研究成果の公開

### 研究部の活動に関する情報収集と研究年報の編集

本館でおこなわれている機関研究、共同研究、各個研究、科学研究費補助金などの外部資金による研究プロジェクトなど、あらゆる研究活動に関する情報を集積し、データ化して保存しています。また、毎年度研究年報の編集をおこなっています。

### 研究成果公開プログラムの活用による本館の研究活動の成果公開促進

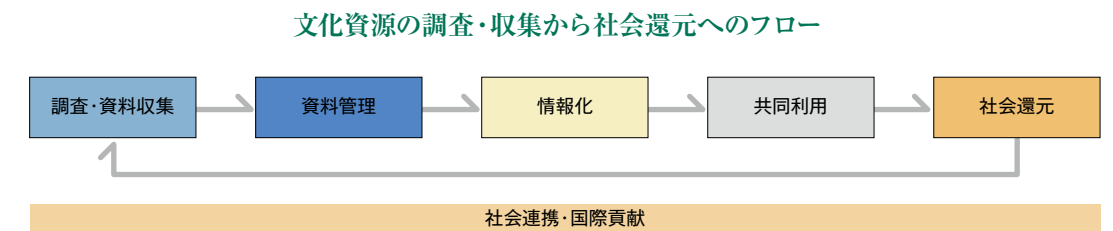
研究成果をより効果的に公開し、社会還元を円滑に図るために、平成14年度に設けた「研究フォーラム促進プログラム」を拡充して、15年度より「研究成果公開プログラム」として位置づけました。本館で行われる共同研究、各個研究などを、シンポジウム、研究フォーラム、学術講演会などの形で公開しています。23年度にはこの制度を活用して、7件のシンポジウム、4件の研究フォーラム、1件のワークショップが行われました。また、毎年東京と大阪で学術講演会を企画し、本館の研究活動の成果を広く社会に還元しています。(18頁参照)

## センターの設置目的

文化資源研究センターは、文化資源の体系的な管理と情報化、およびその共同利用や社会還元に向けて調査や研究開発をおこなうとともに、実際に事業を推進する際の企画・調整をおこなうことを目的として、平成16年4月に設置されました。

文化資源には、人間の文化にかかわるさまざまな有形のモノやそれについての情報のほか、身体化された知識・技法・ノウハウ、制度化された人的・組織的ネットワークや知的財産など、社会での活用が可能な資源とみなされるものが広く含まれます。こうした文化資源を人類共有の財産とすることで、グローバル化する世界で人びとが異なる文化への理解を深め、互いに共生していくための基盤を作り出そうというのが、文化資源研究センターのめざすところです。

文化資源は、調査・収集されることでその価値が顕在化され、体系的な資源管理と情報化を経て、共同利用や社会還元に供することが可能となります。これらの各ステップはまた、社会連携や国際貢献の枠組みのなかで推進されます。このような一連のステップは、下図のようなフローの形で表現できます。



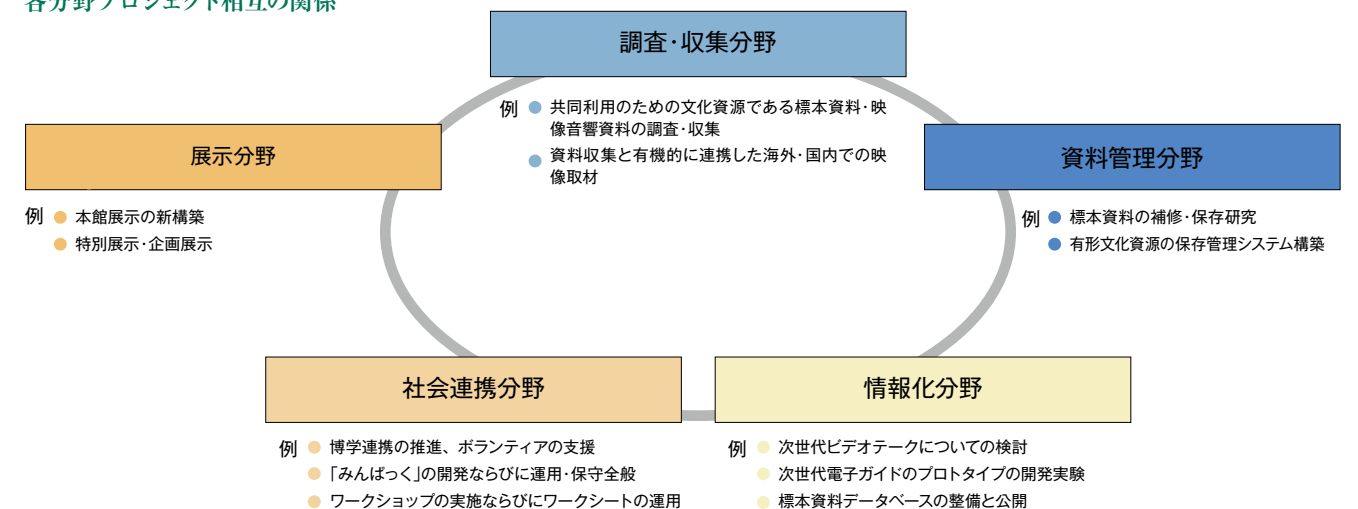
各ステップは、それぞれ、諸問題を理論的に解明する「基礎研究」、それにもとづいて方式・体系・技術の開発やそのための予備調査などをおこなう「開発研究」の段階を経て、実際の「事業」として展開されます。

文化資源研究センターは、上記の各ステップに関わる先進的な基礎研究・開発研究と事業推進する際の企画・調整をおこないます。現在、本館では、文化資源研究センターが中心となり、全館的な取組みとして、本館展示の新構築を進めています。開館以来30年余が経ち、世界の状況や学問のありかた、さらには来館者がみんぱくに期待するものも、大きく変化しました。こうした変化に対応し、大学共同利用機関としての機能を最大限に活用して、国内外の大学や博物館と共同しつつ、最新の研究成果を広く社会と共有するための展示を新たに構築しようというのが、そのねらいです。新たな展示は、展示に関わる三者、つまり展示の作り手としての研究者、展示の対象となる文化の担い手、そして展示を見る側としての来館者のあいだの、相互の交流と啓発の場、すなわちフォーラムとなることをめざしています。また、これまでの個々の地域文化の特徴を示す展示から、グローバル化の進展にともない、それぞれの地域と世界とのつながりを示すとともに、その動態も映しだす「グローバル展示」の実現をはかります。

## 文化資源プロジェクト

「文化資源プロジェクト」は、第2期中期目標・中期計画に沿って、大学共同利用機関としての共同利用基盤を整備するとともに、本館あるいは関連する他機関が所有する文化資源の体系化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるための研究プロジェクトです。平成21年度から外部メンバーの増強をはかり、文化資源共同研究員の制度を導入し、提案されたプロジェクトの審査について、外部の有識者による意見聴取の制度も取り入れました。

### 各分野プロジェクト相互の関係



## 国際学術交流室

### 設置目的

国際学術交流室は、組織的な国際交流を円滑に進めることを目的にして、平成22年4月に設立されました。

本館は、その設立以来グローバルな視野を持ち、積極的に海外の研究機関や研究者と連携、協力しながら研究活動と博物館活動を行ってきました。国際学術交流という点では大学共同利用機関の中でも先駆的な役割を果たしてきたといえるでしょう。しかし、それは多分に研究者の個人的な関係と努力に負うところが大きく、組織的、戦略的な連携協力関係の構築はどちらかという立ち後れていました。20世紀末に始まった情報通信技術革命は、国際的な情報交換のスピードと量を飛躍的に増大させました。その結果、館の国際的な活動ももはや個人の努力や関係では処理しきれない状態となり、組織的、戦略的な国際交流が求められています。国際学術交流室は、これまで蓄積されてきた海外の研究機関、研究者との関係を活かしつつ、館としてより戦略的、より組織的に国際的な研究連携や共同研究を推進するために、以下のような活動を行っています。

### 海外の研究機関との研究連携、研究協力の推進

研究連携や研究協力のために、海外の研究機関との協定について、調査・準備を進めています。平成23年度は、6月にロシア・ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所、10月にロシア・ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館(クンストカメラ)、3月にベトナム・ベトナム生態学生物資源研究所との間に協定を締結しました。

協定先機関名	協定締結日	協定の概要および平成23年度活動概要
ベトナム生態学生物資源研究所(ベトナム)	平成24年3月22日	共同研究、研修、出版、展示等に関するプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進など。
ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館(クンストカメラ)(ロシア)	平成23年10月21日	学術・文化の両分野における相互交流および協力関係の発展など。23年度には、人類学民族学博物館が保有する大量の日本関連の標本資料の中から、シーボルトが長崎で収集した資料を中心に調査を行った。
ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所(ロシア)	平成23年6月1日	考古学、人類学、及び民族学の共同研究の推進など。23年度には、科学研究費補助金によるプロジェクト「ロシア極東森林地帯における文化の環境適応」の調査を、ハバロフスク地方と沿海地方、並びに中国黒竜江省において、実施した。
ロシア民族学博物館(ロシア)	平成22年12月3日	博物館学、調査研究、文化財保護の各分野における協力と相互支援の推進など。23年度には、国立民族学博物館から研究者を派遣し、共同研究の準備を行った。
教皇庁立ペルーカトリカ大学(ペルー)	平成22年12月1日	学術交流ならびに共同的な研究事業の推進など。23年度には、機関研究「包摂と自律の人間学」の学術協力の特定協定を結び、アンデスの歴史と文化に関する科学研究費補助金によるプロジェクトを推進した。
アンタナナリヴ大学(マダガスカル)	平成22年11月22日	学術分野における相互協力活動の推進など。23年度には、アムルニ=マニア県(マダガスカル)のザフィマニリ村落周辺で木材利用の調査を行った。また、1名研究者を招へいし、機関研究シンポジウムを開催した。
エジンバラ大学(英国)	平成22年5月17日	学術交流ならびに共同的な研究事業の推進など。23年度には、エジンバラ大学から 1名研究者を招聘し、12月に国際シンポジウムを行った。
故宮博物院(中国)	平成21年10月16日	相互の学術交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。23年度には、故宮博物院から 3名の研究者を招聘し、国際学術交流室主導で11月に国際研究フォーラムを行った。
国立台北芸術大学(台湾)	平成21年5月15日	相互の学術交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。23年度には、「民俗/民族文化の教育と博物館」をテーマに台北にてワークショップを開催した。
内蒙古大学(中国)	平成20年9月22日	双方の教職員・研究者の交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育分野における協力、学術資料・出版物の交換など。23年度には、国際共同研究について討論した。
国立民俗博物館(韓国)	平成19年7月11日	研究者交流、共同研究、研究集会の実施、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など。23年度には、「蔚山達里100年学術交流」協定に基づき、本館「蔚山コレクション」を貸出して蔚山博物館において特別企画展「75年ぶりの楊郷 1936年蔚山達里」を開催した。また、韓国で映像人類学を専攻する大学・大学院生に、両館の指導の下で作品を製作させ、その作品をビデオテーク番組等で一般に公開した。
順益台湾原住民博物館(台湾)	平成18年7月1日	台湾原住民の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的調査、国立民族学博物館ならびに他の博物館に所蔵されている台湾原住民関連の資料に関する調査、報告書・研究誌の発行。23年度は、台湾・順益台湾原住民博物館における特別展「台湾原住民―百年影像暨史料特展」のため、本館の「馬淵東一アーカイブ」の映像資料を貸出すと同時に、関連する民族誌的、歴史的情報の提供を行った。
国立サン・マルコス大学(ペルー)	平成17年6月14日	考古学分野における共同調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流を促進すること。23年度は、バコパンバ遺跡(ペルー)の発掘調査、出土遺跡の整理を行った。また、その報告を、ペルーおよび日本での学会、シンポジウム、フォーラムで発表した。



ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所との協定調印式



ベトナム生態学生物資源研究所との協定調印式



ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館との協定調印式

#### みんぱくフェローズ

これまで本館と関わりのあった海外の研究者、および本館と関連の深い国内外の研究機関を「みんぱくフェローズ」として位置づけ、そのネットワークを構築しています。ネットワーク内の情報交換の手段として、英文のニューズレター(MINPAKU Anthropology Newsletter)を年2回発行し、交流を促進しています。「みんぱくフェローズ」として1,196件が登録されています。

#### 社会連携(研究開発)

博学連携教員研修ワークショップ2011 in みんぱく	朝倉敏夫
カムイノミ及び重要無形文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施	佐々木史郎
「表現で出会う・表現でつながる」(平成21年度～23年度)	西 洋子

## 文化資源計画事業

「文化資源計画事業」は、研究成果を普及することを目的とした事業で、2つの分野(資料関連、展示・社会連携)に分けられます。

## 平成23年度文化資源計画事業一覧

#### 資料関連

「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と収集：韓国国立民俗博物館との交流事業

標本資料「マダガスカルの手ぼうき」の寄贈受入	飯田 卓
標本資料「京都大学学術調査隊民族資料」の寄贈受入	小長谷有紀
旧民族学博物館所蔵資料の調査と整理・登録	近藤雅樹
標本資料「祭壇模型の複製(北海道アイヌ)」の寄贈受入	齊藤玲子
標本資料「キリスト教再洗礼派関連衣服、生活用品」の寄贈受入	鈴木七美
標本資料「北方獅子舞用衣装」の寄贈受入	陳天璽
標本資料「カレンダー資料」の寄贈受入	中牧弘允
標本資料「アラビア書道作品」の寄贈受入	西尾哲夫
日本統治時代後半期における台湾の映像記録ならびに当該地収集資料の寄贈受入	野林厚志
標本資料「ボン教儀礼用具一式」の寄贈受入	三尾 稔
標本資料「メキシコのレタブロ(絵画)」の寄贈受入	八杉佳穂
標本資料データベースクリーニングのための支援ツールの開発とデータベース公開	山本泰則
写真資料「京都大学学術調査隊関連写真資料」の寄贈受入	吉田憲司

#### 展示・社会連携

蔚山博物館での「蔚山コレクション」の展示：「蔚山達里100年学術交流」との関連で

ボランティア活動支援	朝倉敏夫
「みんぱくく」の新規および改訂版の制作	朝倉敏夫
ワークショップの実施ならびにワークシートの運用	朝倉敏夫
「彫刻家エル・アナツイのアフリカ」展の国内巡回	川口幸也
平成23年春特別展「ウメサオタダオ展」の東京(日本科学未来館)共同開催	小長谷有紀
年末年始展示イベント「たつ」	小林繁樹
言語展示場メンテナンスプロジェクト	庄司博史
台湾における先住民関連展示会への文化資源の活用	野林厚志
音楽展示の部分改修	福岡正太
特別展等の映像記録のマルチメディアコンテンツ化	福岡正太
巡回展「マンダラ展－チベット・ネパールの仏たち－」	南真木人

## 平成23年度文化資源プロジェクト一覧

調査・収集	
「トッパに魅せられた人々」に関する映像資料の編集	小長谷有紀
モンゴル展示場における移動式住居の置換―現代化する伝統・情報化するモノ―	小長谷有紀
アイヌの魚皮製衣服の収集と映像取材	佐々木史郎
つくりものの収集	笹原亮二
徳之島の民俗芸能に関する映像取材	笹原亮二
メンドンの衣装・装束の収集	笹原亮二
20・21世紀アメリカ合衆国におけるキルト標本資料収集	鈴木七美
アメリカ先住民族の工芸品制作に関する映像資料編集計画	鈴木 紀
フィリピンのごング音楽に関する映像番組(マラナオ語版、英語版)の編集	寺田吉孝
復元製作したチャンメラの購入、及び記録の作成	福岡正太
「インド・ラージャスターン州における女神祭礼の多様性と変容」に関する長・短編作品の製作	三尾 稔
映像音響資料収集「インド・ラージャスターン州における社会変容と婚礼」	三尾 稔
マルチメディア・コンテンツ「中国雲南省ペー族の儀礼と生活の民族誌」の製作と関連短編ビデオテーク番組の製作	横山廣子
標本資料(「みけしの里 織と染の資料館」所蔵資料)の収集	吉本 忍

### 資料管理

有形文化資源の保存・管理システム構築	園田直子
--------------------	------

### 情報化

みんぱく所蔵北アメリカ先住民版画データベースの館内公開	岸上伸啓
旧文部省史料館資料のうち「西北ネパール学術調査隊」写真資料の整理と著作権処理、写真データベース公開	久保正敏
世界の布文化データベース(アジア)の構築	久保正敏
三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築	佐藤浩司
音楽・芸能映像データベースのデータ追加	福岡正太
梅棹忠夫コレクション写真資料のデータベースの作成	吉田憲司
京都大学学術調査隊関連資料の整理とデータベース作成	吉田憲司

### 展示

平成24年春特別展「今和次郎 採集講義－考現学の今」	久保正敏
平成23年春特別展「ウメサオタダオ展」	小長谷有紀
中央・北アジア展示新構築事前調査	佐々木史郎
平成23年秋特別展「千島・樺太・北海道 アイヌのくらし」	佐々木史郎
人間中心デザインに基づいた社会還元効果を高める展示デザインの実証的研究	平井康之
次世代電子ガイドのプロトタイプの開発実験	福岡正太
次世代ビデオテークについての検討	福岡正太
電子ガイド用コンテンツの製作	福岡正太
企画展「インド ポピュラー・アートの世界」	三尾 稔
平成23年度本館展示新構築(ヨーロッパ展示場、情報展示場、イントロダクション展示)	吉田憲司
平成24年秋特別展「世界の織機と織物」の展示準備	吉本 忍